

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

11281

真舟芸術振興基金事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	2	芸術・文化の振興
取組方針	1	芸術・文化活動の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	文化振興費		
	大事業	文化振興事業		
中事業	真舟芸術振興基金事業			

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	文化振興課	洲崎 敬一郎 435-1194
事業実施の根拠法令	和歌山市真舟芸術振興基金条例		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	若手芸術家の育成や伝統文化の承継を目的とする。		書道家の故山本真舟氏の遺族からの寄付金を基に基金を設定。基金を活用し書道講習会事業・若手芸術家支援事業の2事業を実施。			
事業内容	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	
	書道講習会 夏期8月18日～19日 受講者23名 秋期11月18日 受講者12名 かな書展 来場者164名 和太鼓ワークショップ 市内小学校6校実施 参加者462名	書道講習会 夏期8月17日～18日 受講者26名 秋期11月3日 受講者12名 和太鼓ワークショップ 市内小学校4校実施 参加者255名 若手芸術家支援事業1名 入場者303名	書道講習会 コロナ禍により、夏期・秋期ともに中止 和太鼓ワークショップ事業 廃止 若手芸術家支援事業1名 入場者238名	書道講習会事業・若手芸術家支援事業	書道講習会事業・若手芸術家支援事業	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	7,796	6,347	6,151	5,516	5,144	2,899	5,895	0	5,895	0
伸び率(%)	△4.2%	0.1%	△21.1%	△13.1%	△16.4%	△47.4%	14.6%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	6,154	6,554	5,638	5,638	4,141	2,071	2,071	0	2,071
	正規職員以外	1,415	903	867	1,301	369	2,081	0	0	0
	小計	7,569	7,457	6,505	6,939	4,510	4,152	2,071	0	2,071
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	7,796	6,347	6,151	5,516	5,148	2,899	5,895	0	5,895	0
一般財源(税等)	0	0	0	0	△4	0	0	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	0.77	0.82	0.70	0.70	0.52	0.26	0.26	0.00	0.26
	正規職員以外	0.57	0.38	0.38	0.57	0.17	0.96	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	報償金 900千円 若手芸術家育成補助金 400千円 会場その他借上料 367千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
講習会等開催数		回	目標値	7	7	3	3	3
			実績値	8	7	1		
			達成度(%)	114.2%	100%	33.3%	%	%
講習会等参加者数		人	目標値	400	400	400	400	400
			実績値	661	595	238		
			達成度(%)	165.2%	148.7%	59.5%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	令和2年度は、コロナ禍の影響により書道講習会事業そのものを開催することができず、少し落ち着きを取り戻しはじめた3月に開催した若手芸術家支援事業であるピアノリサイタルでは、コロナ感染拡大防止措置を講じながらもある程度の観客を動員することができた。参加者から概ね好評を得ており、一定の成果が表れているものとする。令和3年度は3年に1回の書道講習会の成果を発表する場を設け、例年よりも作品を拡充し事業の充実を図る。
見直し・改善内容	書道講習会事業については、受講者の増加を目指す。また、講習会の成果発表の場としての展覧会を開催し、本市におけるかな書道のさらなる振興を目標とする。 若手芸術家育成事業については、対象者の知名度や集客力の向上ができるよう、さらなる広報の強化と芸術家の育成を推進していくとともに、市民に優れた文化芸術に触れる機会を広く提供することを目指す。